

池中ブランドを誇りにもつ学校

本年度のねらい

自己指導能力の育成

伝統とは革新の連続である

～学校教育目標～

当たり前のことを当たり前にできる人を育て、豊島区教育ビジョン 2019 の実現を目指し、知、徳、体のバランスのとれた生徒の育成に取り組む。
さらには、人権尊重の精神を基調とし、遅しく、主体的に生きる生徒を育むとともに、ISS 活動を通して安全・安心な学校づくりに邁進する。

○すすんで学び 実践する人

○感謝する心を持ち 責任を果たす人

○心身ともに健康な人

生きる力の土台を育む小中連携教育

確かな学力の育成

豊かな心の育成

健やかな体の育成

一人一人を大切にする教育の推進

家庭と地域の教育力向上

教師力の向上と魅力ある学校づくり

- ・「3, 7, 30」の流れを意識した学級経営、教師集団としての統一感ある徹底した一貫指導
- ・原則として毎時間行う「呼吸タイム」の継続（吸って3秒、止めて2秒、はいて5秒の6セット）
- ・体幹を意識した聴く姿勢の確保と集中力の維持
- ・家庭学習ノート、自学ノートの習慣化
- ・よりよい授業作りのための「授業ミニマム32」
- ・自己肯定感や自己有用感の感じられる学級づくり
- ・積極的に自分の考えを発表できる場として、教師側が仕掛けをつくり意図的・計画的に進める
- ・ICT 機器の有効活用と小中連携教育における小学校での実践授業
- ・朝の読書活動を利用して読書量を増やすための工夫とメディアセンターの有効活用
- ・考える、議論する道徳の授業改善と評価の工夫
- ・ISS 活動を意識した授業展開の工夫
- ・家庭と連携したSNSルールの徹底と活用の工夫
- ・ナレッジマネジメントの一層の定着
- ・50分授業の完全確保及び始業終業の挨拶の徹底。
- ・生徒の学ぶ意欲を引き出す授業展開の工夫
- ・主体的、対話的で深い学びの授業改善工夫
- ・各教科に必要な用語を中心とした言語活動の充実
- ・生徒会活動の充実と課題解決能力の育成

教員同士が対話することで、
気づきが生まれる
気づきを大切にした指導展開の工夫と充実

自立した自分を磨く。成長し続ける。

公的成功
(相互依存)

解ってあげてから、
解ってもらう。

Win-Win を考える。
勇気と思いやり。

私的成功
(自立)

何を優先するか、
大事なことからすぐに行動。

何が大切かを考える。
(最終到達目標)

自分で考えて行動する。(自己指導能力)

力を合わせる。
みんなで考える。
(相乗効果)

- ・体力運動能力調査結果に基づく体力向上計画（体幹の確立を目指す）
- ・ISS 活動を通して、自助、共助に耐えうる体力の向上と安全確保意識の醸成
- ・運動に親しむ能力や態度を育成し、自らの健康を考えられる生徒の育成
- ・給食指導を中心にして、食に関する興味関心を高め、教師自ら食を大切にし、マナーを遵守した食育指導の徹底
- ・運動会などの体育的行事の一層の充実（小中連携を視野に入れて）
- ・「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き」をセットで考えた健康指導
- ・「一生懸命やる姿が格好良い、本気でやるから素晴らしい、心を込めると感動する」の奨励
- ・教師が自ら範を示し、あきらめずに最後までやり抜く気力と体力の育成
- ・身近な問題として捉えるべく性教育やがん教育の理解と実践
- ・ゲストティーチャー等を活用した心身向上のための土曜公開授業
- ・「落ちてこない、動かない、倒れてこない」を合い言葉に地震防災教育
- ・東京オリンピック、パラリンピック 2020 の機運を活用した実践

- ・特別の教科道徳の授業を基盤として、全教育活動を通して心を育て、人間性・社会性を身につけさせる教育の推進
- ・多くの発表の場を設定し、自分の言葉で表現できる判断力と実践力の育成
- ・学校全体として同じ方向の良きヒドゥンカリキュラムの徹底
- ・全教職員が「気づき」を大切にし、組織的ないじめ撲滅の初期対応の徹底
- ・SCやSWと連携し「安定した心」を育て、人として生きる意味を考えさせる指導
- ・挨拶（先言後礼）、返事、廊下歩行のマナー等の礼法の指導の徹底
- ・特別支援教室を活用した個別指導の充実。専門機関と連携した迅速な対応
- ・自他共に大切にする人権尊重の精神を理解した学級・学年経営
- ・通常の学級における配慮を要する生徒の理解と具体な実践
- ・ノーマライゼーションの理念に基づくインクルーシブ教育の実践
- ・自らの授業力、指導力を磨き体罰によらない指導法の習得
- ・「全ての教師は国語の教師」としての良い言葉遣いを実践
- ・世界観を広げ自国の素晴らしさを実感できる国際理解教育の推進